

学校教育目標実現に向け「めざす姿」と「つけたい力」で語り合う学校 — 子どもの姿を見取り、価値づけ、成長に導く教員の関わりに着目して —

大分大学教育学部附属小学校
校長 木村典之

1 はじめに

令和4年4月に着任し、最初に見た「ひとりで黙々と掃除する自律した姿」が、未だに脳裏に焼き付いている。そして、学校全体に同じ光景が広がっていることに驚いた。そのあと、「どうしたらこのような自律性が育つのか?」といった問いが湧いてきた。以前からいる先生に聞いてみた。すると、「学校改革(※「学校改革スタートブック参照)以前は、学級ごとに掃除区域が割り振られ、担任が自分のクラスの児童に対して掃除指導を行っていた。取り組みは、担任の考え方に負う部分が多く、児童の姿としても満足のいくものではなかった。そこで、平成29年度から、学校づくりの一環としてチーム掃除を全校で取り組むことにした。最初は、方法や手順の統一を図るなど形から入った。その後、掃除を通してどんな力をつけるか、などを考えるようになった。それ以降、毎年バージョンアップを繰り返し、今の姿がある」という。「何か新しいことをしなければ・・・」と構えて着任した私は考えを改めた。学校改革を通して変革してきた本校の「児童の姿」とそれを支える「教員の関わり」ととらえ発信することが、私に課せられた使命だと思った。



写真1 R4年4月の姿

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

本校では、学校教育目標実現に向け、具体的な「子どもの姿」と「つけたい力」に基づき、提案や総括がなされる。授業研究でも、「子どもの姿」を根拠とした議論が中心である。本校では、この具体的な「子どもの姿」を捉えることを「見取り」といい重視している。また、「子どもの姿」を見取る際、その姿には、どんな価値があるのかを捉えるようにしている。これを「価値づけ」と呼んでいる。「見取り」「価値づけ」には、鍛えられた鑑識眼や言語能力が求められ、教員の力量形成と深く関わる。中核教員を育成する使命をもった本校教員には、必要なスキルである。また、児童にとっては、「めざす姿」と「つけたい力」を明確にすることで、「なり

たい自分」を具体化することにもつながる。学校教育目標に向かって、「めざす姿」と「つけたい力」をキーワードとして、子どもの成長にしっかりとコミットし、子どもも教員も一緒に成長していける学校であってほしいという思いから、本主題を設定した。

(2) 研究の目的

本研究では、チーム掃除(本校では、キラキラ掃除と呼んでいる。)に着目し、「目的や方法を考えながら主体的に掃除する(自律した)姿」を育んだ「教員の関わり」について整理する。また、これらの姿が全校に広がっている要因を、学校のリーダーである「6年生の姿」から考察する。教員の「見取り」「価値づけ」が、子どもの成長にどう活かされたかを明確にすることが本研究の目的である。

3 取組の実際

(1) 学校教育目標実現に向けた体制作り

①「育てたい子どもの姿」(ビジョン)の共有

グローバル化・多様化する未来社会をよりよく生きる力を伸ばすことを目指し、令和4年4月から学校教育目標を「グローバルリーダーの育成」とした。本校が目指すのは、「一人一人がそれぞれのリーダー」である。先頭に立ってぐいぐい引っ張るリーダーでなく、「そと後ろから支える」「仲間の成長に関わる」「所属集団の目標達成に貢献する」などをグローバルリーダーの姿として、学校全体で共有した。

また、グローバルリーダーに必要なとされる資質・能力を学習指導要領が示す3つの資質・能力と知・徳・体の側面からマトリクス化して示した。これまで、本校が大切にしてきた「公(公共)」を中心におき、身に付けさせたい力を整理した。教員には、教育活動が、9マトリクスのどの力を育てようとしているのかを意識して指導するよう、お願いした。

育成を目指す資質・能力	知(確かな学力)	徳(豊かな心)	体(健やかな体)
知識・技能	言語能力	礼儀	持久力
思考力・判断力・表現力	情報活用能力	公共	自己認知力
学びに向かう力・人間性	調整力	寛容	自律

図1: 育成をめざす資質・能力

② チーム掃除に向けての教員の取組

キラキラ掃除のチームは、各学年男女1名ずつの縦割り班12名で編成している。他クラス、他学年の児童を指導することになるため、教員のベクトルをそろえることが重要になる。今年度も年度初めに、全教職員を対象として、掃除担当教員が主体となって掃除研修が行われた。直線拭きとカクカク拭き、ごみの集め方など、細かな決まり事を確認した。映像を使って前年度の課題も共有した。また、「掃除を通して‘育った姿’をとらえ、頑張りや成果を適切に価値づけられた子どもは、さらに意欲を高めた姿へ成長していく。しっかりと見取って、価値つけてほしい。また、指導すべき事は、躊躇せず指導してほしい。」と、担当が思いを語った。



写真2 教員の掃除研修

③ 6年生が目指すリーダーとしての姿

6年部では、年度初めの学年開きで、R5学年テーマを「百打一音」とし、「縁の下の力持ち」「全校の顔」という「めざす姿」を共有した。また、「どんな6年生になりたい?」「なりたいリーダー像は?」という教員からの問いかけに、「相手の目線に合わせる(高さ)」「やってみせる」「安心してもらう」「支える」などの言葉が子どもたちから発表された。教員は、それらの言葉を価値語(社会・公を意識した価値ある言葉)として、教室や廊下に掲示した。



写真3 廊下に掲示されためざす姿

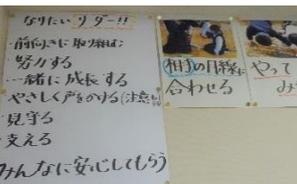


写真4 学級に掲示された価値

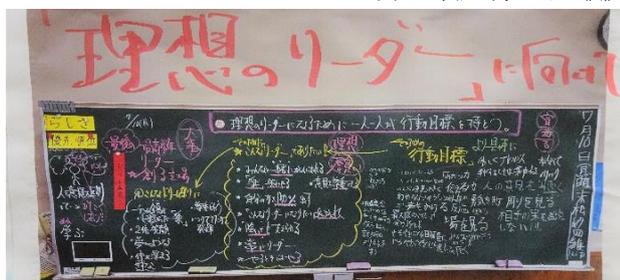


写真5 話し合いの足跡(板書写真を利用した掲示物)

(2) キラキラ掃除の取組

① チーム掃除に向けての6年生の姿

チームはクラス替えにあわせて1年ごとに教員が編成するが、どのようなチームにするかは、リーダーである6年生が主体となってつくりあげていく。年度初め

は、チーム開きの時期でもあり、新しい人間関係を築くことから始まる。6年生は、小学校生活に慣れていない1年生が安心してチーム活動に参加できるよう、丁寧に関わりを作っていた。



写真6 1・6出会い集会

【年度の当初の活動】

6年生掃除集会 (4月11日)	掃除集会準備(なんのため?だれのため?どんなよさがある?:意義の確認)
1・6出会い集会 (4月13日)	自己紹介、6年生が考えてきた遊びを通して仲良くなる。
チーム出会い集会 (4月14日)	6年生がリーダーとなって、どんなチームにしていきたいかを話し合う。
キラキラ掃除集会 (4月17日)	掃除の意義の確認、掃除区域の確認、チーム内の清掃分担
1・6掃除集会 (4月19日)	6年生が1年生に雑巾がけの仕方、雑巾の絞り方、机の運び方などを教える。
キラキラ掃除開始 (4月20日~)	最初の三日間は、6年生がチームの1年生を迎えに行く。

② キラキラ掃除の姿

キラキラ掃除は、授業前に美しい環境を整えるため、毎朝8時15分から15分間行っている。8時22分にプラスアルファ掃除の放送が流れ、もっときれいにしたいところの掃除と片付けを行う。8時25分の放送で、振り返りが始まる。チーム全員でお互いの表情が見えるよう円になるなどして正対し、掃除した場所を見ながら振り返りを行っている。



写真6 振り返りでの正対の姿

③ 4月の6年生の姿

班内の仕事の割り振りは班長が他の6年生と相談して計画し、担当教員の許可を得て決定する。1、2年生は原則床拭きの雑巾のみ。6年生は、必ず床拭きの雑巾係となり、姿で手本を示すようにしている。4月は、慣れない1年生に掃除の仕方を丁寧に教えた。



写真7 1年生に教える6年生の姿

⑤ プレイングマネージャーとしての姿

6年生は、4月に限らず年間を通じて下学年の掃除の指導や見守りを行った。掃除の技の伝授はもちろん、チーム掃除でめざす姿について語った。また、下学年を

育てる役だけでなく、一人の掃除分担者としても自分の仕事を確実に遂行した。その一人二役の姿が下学年の憧れとなっている。

⑥ チーム引き継ぎ集会での姿

毎年、1月下旬に、5年生と6年生の間でチーム引継ぎ集会を行っている。6年生から5年生へ掃除ファイルが渡され、リーダーとしての経験や思いなどが語られる。引継ぎ集会後、2月からは、5年生が中心となってキラキラ掃除をすすめる。6年生はフォロー役となり、5年生を後ろから支えた。

(3) キラキラ掃除を支える教員の関わり

① 清掃区域担当の関わり

清掃中の教員の役割は、掃除を行う子どもの様子をきちんと見取り、その頑張りを認め、価値づけることである。振り返りの時間には、端末で記録した児童の「素敵な姿」を紹介し、めざす姿の共有をはかった。「さらによくするには?」と問いかけ、「なりたい自分」や「つけたい力」について考えさせた。記録した「素敵な姿」は、教員同士で共有した。



写真8 素敵な姿の見取り

② 担任の関わり

担任は、朝の会で、「全力で拭く姿、机のラインをそろえる姿」など、「素敵な姿」を紹介して、頑張りを価値づけた。また頭の位置や指先に注目させ、「どんな工夫がある?」と、気づきを引き出したり、「だれのため?」と問いかけたりした。6年の担任は、「リーダーとして目指す姿に近づいているかな?」と問いかけた。



写真9 素敵な姿の価値づけ

③ 担任外の教員の関わり

担任以外の教員は、全校を見て回りながら、「素敵な姿」を端末で記録し、コメントを付けて担任に渡した。掃除区域の教員や担任以外の教員からの「素敵な姿」のメッセージは、児童の喜びを倍増させた。



写真10 素敵な姿の共有

④ キラキラ清掃担当教員の関わり

清掃担当教員は、月のはじめなどの節目に、掃除開始放送を通して、「掃除に打ち込む子どもの姿」を紹介している。その際、「〇〇な力が付いてきていると思います。とても素敵です」と価値づけたり、「みなさんは、どんな姿を目指すのでしょうか」と問いかけたりした。

児童がめあてをもつ上で、大きな指針となっている。

⑤ 学年部の関わり

各学年部では、毎月学年集会を開き、児童による実行委員会を中心として、「めざす姿」と「身に付いた力」の視点から、振り返りを行った。発言は板書記録として残し、廊下に掲示した。月ごとに貼り足していくので、成長を実感させるツールとなっている。



写真11 成長の足跡

⑥ 運営委員の関わり

運営委員会では、各学年主任が学年の成果と課題を持ち寄り、育てたい姿に近づいているかを定期的に検証している。生活指導部長は、全体をマネジメントする立場から、改善の方策と、次の月の取り組み方針を示した。そして、「学校での姿が公でも通用する『真の力』へと向かうよう指導してほしい」と語りかけた。

(4) 育った子どもの姿 (成果)

① 掃除の成長

令和5年度、特に目にするようになったのは、「隅々」清掃である。プラスアルファ掃除の時間に、廊下の縁、板目の溝など、細部まで徹底的にきれいにしようとする姿が見られる。また、箒や雑巾でも取れないごみは、道具を工夫したり、手や指で集めたりする姿も頻繁にみられるようになった。「よりよい自分」に向かって、目的や方法を自ら考え、主体的に掃除する(自律した)姿がさらに広がっている。



写真12 広がる自律した姿

② 心の成長

6年生の価値語や成長ノートには、活動や経験から得られた価値ある言葉がたくさん書かれた。その中に、心の成長を感じさせる言葉が記述された。(資料1) 特にリーダー性においては、「頼る力」「日かげの協力者」など、経験から見いだされた自分らしいリーダー像が表現された。4月～7月の取り組みを通して、6年生はひとまわり成長した。

種別	4～7月で身に付いた力・成長した姿
人間関係	親しき仲にも礼儀あり、男女関係なく、開いたグループ、一人をつくらない、美点凝視、正対、温かい反応
社会参画	自分たちで、出席者ではなく参加者に、公的語法、いい空気をつくる、公の場で通用する人に

自己実現	一人が美しい、裏を美しく、よりよくなる、成長する、 学ぶ＝まねる、修正力、先を見通す力
相手意識	相手軸、マナーは相手軸、公の意識、譲り合い、気がつく人より気が利く人に
リーダー性	よりそう、裏で動く、日かげの協力者、一緒に成長する、 誰かの役に立つ、目立つ力と目立たない力、頼る力

資料1 価値語、成長ノートから抜粋

4 考察（自律的な掃除が広がっている要因）

・掃除方法・手順の統一

掃除方法の統一は、チーム掃除の基盤であり、指導のベクトルあわせの大前提である。誰もが指導できる体制（組織的な取組）が重要である。

・PDCA サイクル

毎日の振り返りでは、課題を解決できたか、新たな課題はないかという視点で、改善サイクルを回している。チームの取組状況は、学年集会で総括し、学年全体の目標達成につなげている。このサイクルが、「もっと良くしたい」という児童の意識を形成していると思われる。

・見取りと価値づけ

見取り、価値づけを具体化する取り組みとして価値語や成長ノートを活用している。価値語や成長ノートには、めざす姿の実現状況が表現されるため、子どもたちの喜びとなっている。また、教員と児童との関係を強める効果もある。（資料2）見取り、価値づけは、子どもの行動変容を促す鍵といえそうである。

・目的意識・相手意識

教員は、掃除に限らず、活動の度に「なんのために？」「だれのために？」を児童に対して問いかけ、「どんなよさがある？」と考えさせている。自分で考え、工夫する掃除の基盤は、こうした目的意識、相手意識、そして、価値を考える習慣によって育まれていると思われる。

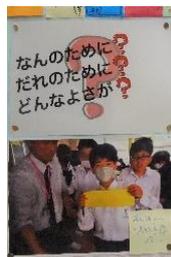


写真13 問いかけ

・人間関係

チーム内の人間関係は、掃除だけでなく、遊び集会、ドリーム祭り、遠足など、年間を通じて形成される。また、楽しく遊ぶだけでなく、企画を考えたり、運営したりする中で、上学年に対する憧れ、信頼、尊敬の感情も培われる。この「憧れ、信頼、尊敬の感情」が、上学年を真似する



写真14 憧れ、信頼、尊敬

下学年の「頑張る姿」につながっている。

5 まとめ

6年生は、6年になってからリーダー性を身に付けたわけではない。例えば、5年生では、「サブリーダー」という言葉が頻繁に使われる。2年生は、「1年生のお手本になりたい」と言う。低学年の頃から、「なりたい自分」の姿を追求しているのである。また、6年生はチームリーダーとして順風満帆というわけではない。4月の成長ノートに、チームを上手くまとめられない自分の姿を記述した児童もいる。教員は、裏での苦勞に対して、成長ノートの中でも寄り添い、認め、価値づけていた。（資料2）この児童は7月の成長ノートに「真似される力が成長した」と書いた。自信をもってチームに貢献できるようになってきているのであろう。教員の「毎日の関わり」と「あたたかいまなざし」が、改めて大切だと、この取り組みから実感した。



資料2 成長ノート

6 おわりに

未来に向かって高い志をもち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き、仲間と共に成長することを喜びとする子に育ってほしい。グローバルリーダーには、そんな願いが込められている。本校のキラキラ掃除は、その中核を担う取り組みである。そして、「公」「自律」など、世界に通用する社会人基礎力を総合的に高める活動でもある。そうした認識を教員と児童とが共有し、「めざす姿」と「つけたい力」という視点で、「子どもと先生と一緒に成長し合う学校」としての質を一層高めていきたい。

【付記】 資料1は、第48回大分県小学校特別活動夏季研究大会における附属小学校発表資料「全校のリーダーとして主体的に学校生活を創造する子どもの育成」p11-12、伊東大智教諭作成「《価値語》(の分類)」を参考にした。

【参考文献】

- 1) 『学校改革スタートブック』 学陽書房、2020年、編集：西川純、著：時松哲也、山田真由美
- 2) 『菊池学級のこどもたち 価値語で人間を育てる』 中村堂、2014年、著：菊池省三、菊池道場
- 3) 『サーバントであれ 奉仕して導く、リーダーの生き方』 英治出版、2016、著：R・K・グリーンリーフ、訳：野津智子